

三里塚・ジェット闘争貫徹／「国鉄35万人体制」粉碎！

関西新空港反対闘争大弾圧

日刊 動労千葉

81.9.5
No.838

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇三三（22）七二〇七

三里塚と連帯する住民運動破壊を許さず

九月二日、大阪府警は、関西新空港建設に反対する明石住民の会・加辺永吉代表をはじめ住民七名を、八月六日、岸和田市「住民説明会」で威力業務妨害・建造物不法侵入をした、なるデッチ上げとコジつけをもって事後逮捕するという暴挙を行なった。これは、八月六日、八日と大阪府が関西新空港建設のため強行した「住民説明会」が、地元住民をはじめ大阪湾岸住民の怒りの抗議行動によって完全破産し、追いつめられたがゆえの政治的報復としてかけられたものである。今回の不当弾圧攻撃は、明らかに関西新空港反対闘争の高揚に怖れた住民運動破壊攻撃であり、三里塚二期着工攻撃へむけた三里塚陣形の破壊攻撃としてあることをみすえなければならぬ。わが動労千葉は、この間、関西新空港建設反対を掲げて闘う住民との連帯を強固にしてきたかかってきた責務にかけて、不当弾圧粉碎闘争を共に闘うことを明らかにする。



反対派住民を實力で排除する警察官
8月6日の「住民説明会」(岸和田市)

住民運動破壊の意図は明らか

「第四次空港整備計画」にもとづく三里塚二期着工攻撃と関西新空港建設は、いまや「五十六年度防衛白書」をもって軍事大国化・改憲攻撃へより一歩ふみこんだなかで、焦眉の課題となっている。こうした情勢のなかで、運輸省・大阪府が関西新空港建設の強行のためにかけてきたのが、岸和田市（8月6日）、泉大津市（8日）での「住民説明会」なるものであった。

この「住民説明会」強行の狙いは、運輸省と大阪府が「住民と話をあつた」との形式をベテンのに整え、一挙に「地元同意」閣議決定へ持ち込まずんとするものであった。

実際、八月六日の岸和田市における「説明会」は、「一切の質問をうけつけず実質一時間たらずの説明」「運輸省の責任者が誰一人参加しない」という一方的やり方をもって強行されようとしたのだ。しかも、あらかじめ住民の声を封じこめようと、大量の制服警官・機動隊を会場内外に配置するといふ戒厳体制をしいたのであった。

開場と同時に住民は入場し、「説明会」のベテンを暴き、警官導入に抗議してたたかいぬいた。これにたいして、舞台裏に待機させていた機動隊を乱入させ暴力的に排除するといふ暴挙を行い、

住民六名を逮捕（三日後に全員奪還）したのである。こんかいの七名への事後逮捕攻撃は、八月六日、八日の闘いの高揚に怖れた国家権力が、その中軸をになう加辺永吉代表らを狙いうち的に弾圧し、もって三里塚・動労千葉と固く結合して関西新空港建設阻止を闘う住民運動を解体・破壊せんとするものである。

三里塚二期阻止、9・6の爆発ではねかえせ

七名への逮捕攻撃が、約一ヶ月前の「事件」のデッチ上げをもって行われたところに、政治的な狙いは明らかである。

それは、今秋三里塚二期工事着工攻撃が切迫化するなかにあつて、三里塚芝山連合空港反対同盟を軸にした闘う陣形が9・6～10・11へむけて強固に形成されつつある、この今秋三里塚二期決戦を圧殺せんとしてかけてきたのが、動労「本部」革マル反動分子のデッチあげ告訴をうけた権力による、わが動労千葉に対する六名の逮捕攻撃であり、そして今回の関西新空港反対闘争をになう住民活動家七名にたいする逮捕攻撃であるのだ。

われわれは、かかる攻撃を断じて許してはならない。七名への不当逮捕―二期決戦陣形破壊策動に、怒りをこめて決起しよう。三里塚二期阻止、9・6三里塚現地集会の爆発をもってはねかえせよ。

全組合員は、明日、三里塚へ結集せよ。

96 三里塚現地集会へ

集合 成田運転区 一〇時

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！